

大学コンソーシアム熊本 中期計画（令和6年度）の進捗状況、評価

中長期計画に対する自己評価	
全体評価	S：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。 A：当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。 B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。 C：当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。 D：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。
A	
評価理由	中期計画として作成した3つの目標に対し設定した14の取組みについて、それぞれ令和6年度の活動指標（評価対象は12）に照らして実績を各部会で評価した結果、S評価1、A評価11であった。また、目標ごとに設定した取組については、企画・運営委員会で評価を行うことになっており、その評価は、①「高等教育機関の教育・研究の充実」についてがA評価、②「高等教育機関と自治体、産業団体との連携」についてがA評価、③「地域社会の教育・文化の向上・発展」についてがA評価と3つすべてがA評価であった。これら、3つの評価結果をそれぞれの目的と照らし総合的に判断した結果、総合評価をAとした。
評価に関する備考（考慮すべき事項）	
令和6年度は、第2期中期計画の初年度ということもあり、第1期の活動内容を基本的に継続しつつ、一部、事業名称の変更や、事業内容を見直すなど、事業の高度化を目指してきた。また、事業実施にあたり、対面活動に限定せず会議にはオンラインを積極的に活用する等、効率的・効果的な運営を行っている。その他、「阿蘇草原保全」のための活動に向けた関係団体との検討や、熊本県教育委員会主催の「学びの祭典」に出展するなど、活動指標だけにとらわれない活動も展開している。 ただ、「高等教育機関と自治体、産業団体との連携」については、新たな組織設置に留まり、新たな組織による活動指標の設定まで至っていない。2025（令和7）年度は、早期に活動指標を設定するとともに、高等教育機関、自治体（行政）、産業界が連携した取り組みが開始されるよう望むものである。	